

# 「食と農」の博物館

## 展示案内 No.55

展示期間 ■ 2011.10.7～2011.10.23

東京農業大学「食と農」の博物館

〒158-0098 東京都世田谷区上用賀2-4-28

TEL.03-5477-4033

FAX.03-3439-6528

開館時間 午前10時～午後5時 (4月～11月)  
午前10時～午後4時30分 (12月～3月)

休館日 月曜日(月曜が祝日の場合は火曜)・毎月最終火曜日  
大学が定めた日(臨時休業がありますのでご注意ください)

## 『佐渡学への誘い』

～地域連携協定締結から二年を迎えて～



たらい船体験



稲刈りの様子

### 佐渡展の開催にあたって

新潟県佐渡市と東京農業大学は2009(平成21)年5月に連携協定を結びました。これは、東京農大のノウハウを生かし、相互に協力し地域振興や教育・研究の充実や佐渡の地域活性化を目指した取り組みに寄与し、佐渡の地域資源・環境を東京農大の教育研究活動に生かすことを目指したものです。

この協定に基づき、実施が考えられる連携事業として、1)まちづくり及び人づくりに関すること、2)自然、環境、産業及び地域振興に関すること、3)教育及び文化の発展に関すること、などがあります。協定締結初年度には、農学科昆虫学研究室、森林総合科学科森林政策学研

究室、造園科学科自然環境保全学研究室、食料環境経済学科食料経済学研究室および環境経済学研究室の5研究室が佐渡に赴いて教員・学生と共に活動をおこないました。

そこで、今後も東京農業大学にとって佐渡市が教育研究の教材やフィールドとなることを期待して、各研究室がおこなってきた活動の成果を紹介します。なお、今回紹介する佐渡市における研究室活動をおこなうに際して東京農業大学教育後援会には学生への助成をしていただきました。厚くお礼申し上げます。

東京農業大学「食と農」の博物館  
館長 小泉幸道

# 昆虫の調査を通じて佐渡の自然を理解する

東京農業大学 農学部 農学科

教授 岡島 秀治(植物保護分野 昆虫学研究室)

農学科昆虫学研究室では、毎年夏休みを利用して夏季合宿を行っています。合宿は3泊4日程度で、学生、院生、教員延べ50人ほどが参加し、各々の興味のある分野で調査や採集を行っています。平成21年と22年の2回は、ちょうど本学と新潟県佐渡市が連携協定を結んだというので、合宿地を佐渡市と決めました。調査はもとより地元の方々との交流にも力を注ぎ、有益な時を過ごすことができました。

新潟県の離島佐渡島は日本海側では最大の島で、その周囲は約280km、面積は東京23区の1.4倍ほどもあります。その大部分を山や丘陵が覆っており、最高峰は大佐渡山地の金北山で標高は1,172m。また、日本海側にありながら対馬暖流の影響を受けて、本州側の同緯度地域よりも比較的温暖で、降水量も少ない傾向にあります。そのため島内には南方系、北方系の植物が混在する豊かな植生が見られます。動物相も豊富で、昆虫類もたくさん生息しています。離島であるため、特に飛翔のできない種類では、本州など他地域と地理的に分布が隔離されて

おり、佐渡島固有の分化をとげているものも見られます。サドマイマイカブリやサドコブヤハズカミキリなどはその代表的なものです。このような、佐渡島の特徴を色濃く示す昆虫類の生息状況を調査することも合宿の目的の一つです。

その反面、昆虫が佐渡の環境に大きな影響を与えている例も観察されました。カシノナガキクイムシによるコナラやミズナラの枯損がそれです。佐渡島は全島が温帯林に覆われていて、平地ではコナラ、山地ではミズナラなどのブナ科の樹木が多く見られます。近年、本州の日本海側の地域でそれらブナ科の樹木の枯損が多発し、その原因がカシノナガキクイムシだということが知られています。佐渡島でもこの害虫が発生し、大きな被害が出ているのを観察しました。このように害虫の発生状況を調べるのも目的の一つです。

また、昨年度は地元の子供たちと交流を深めました。子供たちと屋外で昆虫の観察をしました。昆虫の観察はその地域の自然を知る上で、大変役に立ちます。観察を通して子供たちに自然の大切さを知ってもらうことも大事なことを考えています。



サドコブヤハズカミキリ



水田での調査風景



枯れたコナラが目立つ

## 地域住民との交流による佐渡学と環境保全

東京農業大学 地域環境科学部 森林総合学科  
教授 宮林 茂幸(森林文化情報分野 森林政策学研究室)

森林総合科学科森林政策学研究室では2009年5月28日に本学と新潟県佐渡市が地域連携協定を結んだことを機に、毎年春、秋の年2回佐渡島の住民の方々との交流活動をおして佐渡学を学んでいます。

佐渡島は日本海に浮かぶ比較的温暖で海で囲まれた環境であるとともに山地や森林も豊富に有し、また、順徳天皇や世阿弥などの貴族文化をはじめ佐渡金山等があったことから江戸時代には武家文化を育みさらには町民文化など、歴史的かつ特有の文化を継承してきました。そのため佐渡学として学ぶための教材が豊富であると言え、学生にとって非常に多くのことを学べる地域であります。

年2回の交流活動では、住民の方々の生活に触れることを目的として田んぼ(トキ米生産)の作業が定例行事になっており、春の田植え、秋の稲刈りを住民の方々や佐渡総合高校の生徒の皆さんとともにを行っています。トキが飛来する田んぼの作業を協働で行い、会話をすることで佐渡の生の文化に触れることができます。また、作業後は意見交換会を行い

住民の方々とより深く語り合うことで佐渡島にある伝統的な暮らしや『技』に触れ佐渡学のイメージを膨らませていくこととなります。そのほかには島内の貴重な自然景観や文化的施設を見学しその有効な活用方法について学生の視点から考察を行っています。

特に、昨年度は地元の高校生とも一緒に田んぼでの作業・交流会を行い、島内の年配者と若い世代、島外の学生と幅広い世代、立場の参加者で話し合いを行う事ができ、地域振興について様々なアイデアが出されました。なお、これらの活動の報告は世田谷キャンパスに帰ってきた後、学生たちが「佐渡新聞」として学内および佐渡島の住民の方々に報告をしています。

交流活動が始まってまだ2年ですが可能な限り今後も継続的にこの活動を進めることによって、学生たちに多くの学びの機会を提供して頂くと共に、佐渡学の体系化と新たな「物語」を創造することにより、少しでも佐渡島の地域振興のお役に立てればと考えております。



田植え集合写真



ワークショップの様子

## 国仲平野の屋敷林景観調査

東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科

教授 麻生 恵(環境計画・設計分野 自然環境保全学研究室)

大佐渡山脈と小佐渡山脈の間に広がる国仲平野の縁辺部には、地元で「クネギ(境木・杭根木)」と呼ばれる屋敷林・集落林・社寺林が点在しています。冬季の季節風から集落や家屋を守るとともに、用材、薪、稲架木(ハサギ)など多様な機能を持つことから、大切に育てられてきました。これらは自然と人間との伝統的な関わりの中から生まれた「文化的景観」ということができます。2010年に策定・施行された「佐渡市景観計画」の中でも、佐渡市の重要な景観構成要素として位置付けられています。

しかし、人々のライフスタイルや社会状況の変化－住宅の近代化、エネルギー転換、過疎化・高齢化による管理の担い手不足など－によって、近年は急速にこれらの景観が失われつつあります。また、「佐渡市景観計画」の中ではそれらの保全策について全くふれられていません。一方で、「佐渡金銀山」の世界遺産登録を目指す上においては、金銀山の遺跡だけでなく、屋敷林などの文化的景観を含めた幅

広い資源(文化財)の保全対策が求められることとなります。

そこで、国仲平野南東部の新穂地区および畑野地区を対象に、現場での景観実態調査や衛星画像を使った景観分析を行うとともに、屋敷林を保有する住民の皆さんに対して意識調査を実施し、屋敷林を維持管理していく上での問題や課題、保全施策に対する意向などについて明らかにしました。

展示では、国仲平野の屋敷林景観(文化的景観)の魅力写真を使ってビジュアルにお伝えすると同時に、地域住民の屋敷林景観に対する思い、将来像、保全対策に向けての意向や可能性についてお伝えしたいと思います。



新穂地区長畝の空中写真



スギの防風林



金北山を背景にした屋敷林

東京農大オープンカレッジ

## 朱鷺(トキ)の里山歩きと朱鷺の暮らす郷づくりへの参加 —新潟県佐渡市での環境体験学習の取り組み—

東京農業大学 国際食料情報学部 食料環境経済学科  
准教授 上岡 美保(食料環境経済分野 食料経済研究室)

皆さんは、日ごろ、食と農と環境の関わりについて考えることがあるでしょうか。この講座では、人と自然の共生を目指した環境づくりに実際に参加し、農家の方々などそこに関わる人たちとの交流を通して、私たち消費者と食料、農業、環境との関わり的重要性を学ぶことを目的として座学と実習を行っています。特に、実習にあたっては、新潟県佐渡市をフィールドとして実施しています。本講座は平成21年度より開講し、今年で3回目の開催となりました。現在までで延べ約20名の方々のご参加をいただきました。

佐渡市では、2003年に野生絶滅したトキが、2008年9月25日、再び佐渡の大空へと飛び立ちました。その後、2015年までに60羽のトキを自然に定着させることを目的に、2009年、2010年、2011年と計4回の放鳥が行われました。トキが人と共生できる豊かな自然環境をつくるため、これまで、佐渡市、農家、地域住民、その他関係者によって様々な努力が行われてきました。現在も、農家による「冬期湛水」、「ビオトープ作り」「減農薬・無農薬栽培」など「生きものを育む農法」によって、トキが生息できる豊かな自然環境とエサ場の確保への取り組みが続けられています。こうした様々な努力によって、近年、着実に成果があがっています。特に、講座第1回目と2回目以降で大きく異なる点は、佐渡島内で自然のトキを見ることができるよう機会が比較的多くなってきたことが挙げられ

ます。

実習では、トキのエサ場確保のための農業に早くから取り組んできた地元生産者団体「佐渡トキの田んぼを守る会(齋藤真一郎会長)」の皆様にご協力いただきました。生きものを育むための農法には、生産者の方の多大な労力が注ぎ込まれていることを、身をもって体験しました。また、生きものを育むための田んぼで、生きもの調査を実施しました。生きもの調査では、多くの虫を捕獲し、益虫・害虫・ただの虫に区分するとともに、生産者の方から生きものを育む農法の意義についてレクチャーを受けました。さらに、生椿の自然を守る会の高野毅会長にご指導いただき、かつてトキが生息していたという生椿地区において里山を歩きながら、自然を守ること、生きものを守ることにトキを守ることの意義についてレクチャーを受けました。

トキは私たちにとっては無縁の生きものだと思います。しかし、私たちは毎日米を食べます。トキをはじめとする生きものは、田んぼやその周辺に生息する小動物をエサとして生きています。トキが野生に再び定着するためには、エサが豊富な田んぼの環境を整える必要があります。そのための農家の方々の多大な努力があります。これまで開催してきた講座では、座学と実習を通じて、参加者の方々と一緒に、トキを介して食・農・環境のつながりの重要性について学ぶことができた有意義な講座

となっています。興味をお持ちの方は是非、講座にご参加いただき、一緒に食・農・環境について考えてみませんか。



佐渡の美味しいもの(酒)で農家の方々との交流会



生きもの調査で捕獲したアカハライモリ



水田でのビオトープづくり

# 女子大生による着地型ツアープラン事業

東京農業大学 国際食料情報学部 食料環境経済学科  
准教授 田中 裕人(食料環境政策分野 環境経済研究室)

佐渡市の基幹産業は農業と観光関連産業です。特に観光に関しては、多様な自然環境にめぐまれ、佐渡金山をはじめとする歴史・文化資源も多く有しているほか、有数の温泉地ということもあり、全国的に有名な観光地として繁栄してきました。ただし、近年の佐渡市の観光客数は、平成3年の121万人をピークとして、減少する傾向がみられます。

このような状況の中、佐渡市は観光の活性化を目的として、2010年度に東京農業大学など4大学に対して、女子大生による着地型ツアープラン事業を委託しました。当事業は、女子大生が自由な発想で、新たな佐渡の魅力を発見し、既存の観光地を評価すると共に改善点を検証し、その結果を踏まえて着地型ツアープランを提案するものです。

佐渡市は、海の幸や山の幸が豊富です。しかし、佐渡市を訪問しても、必ずしも佐渡市産の食材の魅力を知る機会があるとは限りません。また、豊かな自然に触れる機会も少ないことがあります。そこで、東京農業大学では、8月下旬に5泊6日の日程で、「食」と「体験」をテーマとして、様々な観光地の訪問や体験メニューを実施しました。その研修の成果を踏まえて、東京農業大学食料環境経済

学科の女子学生は、下記のような佐渡市のツアープランを作成しました。

- (1日目) 両津港到着→二ツ亀海水浴場・大野亀→のらいぬカフェにて夕食(夕食は要予約)→相川温泉にて宿泊
- (2日目) シュノーケリング→えんや(カフェ)にて昼食→宿根木→矢島・経島にてたらい舟体験→長三郎(寿司屋)にて夕食→両津港周辺の温泉宿にて宿泊
- (3日目) ビオトープ作り体験→昼食→両津港にてお土産購入→帰路

このツアープランの特徴は下記のとおりです。

1日目は、のらいぬカフェの夕食です。ここでは、佐渡産の食材をできるだけ使用した、手の込んだおいしい料理が食べられます。店内は、古民家を改装しており、インテリア等も工夫されていて、オーナーが細部までこだわっている隠れ家のお店です。

2日目は、矢島・経島のたらい舟体験です。佐渡独自の文化であるたらい舟は、年齢問わず気軽に体験できます。また、美しい景色を眺めながらの船頭によるお話は、佐渡の歴史にも触れられる良い機会となるでしょう。体験終了後に、周辺を散策してみるのも楽しいものです。

3日目は、ビオトープづくり体験です。しかし、現在では、このメニューは気軽に体験できません。今後、ビオトープづくり体験がより多くの人にとって実施可能になれば、多くの体験者が希少な生きものに触れることができるだけでなく、作業を通じて環境保全に寄与する効果も認められるでしょう。

上記以外にも、佐渡市には多くの魅力的な資源が存在します。多くの観光客に佐渡市に足を運んで頂き、その魅力を存分に味わって頂くことを期待しています。



のらいぬカフェ 1



矢島・経島たらい舟体験



宿根木のボランティアガイド



生橋でのビオトープづくり体験

## GIAHS(世界農業遺産)の島 佐渡展のご案内

佐渡市役所農林水産課生物多様性推進室  
主任 西牧 孝行

佐渡は、新潟から約60kmの日本海のほぼ中央に位置する離島であり、面積855km<sup>2</sup>、周囲280kmにおよび、沖縄を除けば日本最大の離島です。

また、海岸線は変化に富み、美しい景観を形成し、島の大部分が国定公園や県立自然公園に指定され、近年放鳥が実現した国際保護鳥で日本の特別天然記念物でもある「トキ」が空を舞い、大佐渡北部の杉の自然林が潮風に揺れ、豊かで美しい自然環境に恵まれています。

人口は、2010年国勢調査速報値で62,724人となっていますが、毎年約1,000人減少し、更には高齢化率も全国平均の23.1%を大きく上回り、36.8%と新潟県内でも5番目に高くなっています。

2004年には10の自治体の市町村合併により一島一市となる「佐渡市」が誕生しました。合併後は統一した施策の方向性として「エコアイランド佐渡」を目指し、トキと人が共生する生物多様性の保全、温室効果ガス排出削減に関する取り組みなどを積極的に進めてきましたが、農村地域における人口減少が深刻化する中、農林水産業や観光業の基幹産業の低迷、更には雇用機会の減少等に伴う人口流出により、過疎・高齢化が進み、農林水産業の後継者不足や集落機能の崩壊など、佐渡全体の活力が失われつつあります。

このことから、佐渡市と東京農業大学は、2009年5月28日に、連携に関する協定書を締結しました。佐渡における地域の活性化と東京農業大学における教育・研究の充実に寄与するため、連携交流を推進し、今年度で3年目になります。

昨年度は、市内集落、NPO等を受け入れ先として大学生がトキの餌場となるビオトープ整備を実施したほか、「生物多様性の実現による人と生物の共生と新たな産業おこし」をテーマ

に、2010年度実践総合農学会第5回が佐渡で開催され、佐渡市における生物多様性の取り組みと地域産業づくり、生物多様性の取り組みに対する国民や消費者の評価と支援、農商工連携などによる新たな地域産業づくり等について、学会会員のみならず、佐渡市内の行政関係者、農業者、NPO等団体、教育者等から、忌憚のない論議が展開され、生物多様性保全の取り組みを全国に発信することができました。

更に、昨年10月には、東京農業大学「食と農」の博物館において、初めての取り組みとなる「佐渡展」を開催し、生きものを育む農法で栽培され環境付加価値の高い「朱鷺と暮らす郷認証米」を中心とした佐渡の特産物の販売、パネル展示、佐渡産米粉の料理体験、佐渡の民謡披露など、あいにくの雨模様にも関わらず、多くの方の参加をいただき、佐渡を知って体験していただくことができました。

このように、これまでの取り組みを通して、大学の教育・研究の充実と、佐渡における地域の活性化に大きく貢献しているところですが、今後は更に、この連携により、卓越した知識と若い力が島の新しい環境再生を促すことを期待しています。

また、佐渡が世界に誇れる生物多様性保全を重視した農業システムのみならず、金山の豊かな歴史が生み出した農村文化や里山・棚田などの美しい自然風景の保全活動も含めて、去る6月11日に、佐渡は能登地域とともに、日本では初となるGIAHS(世界農業遺産)に正式に認定されました。

GIAHSとはFAO(国際連合食糧農業機関)が2002年から開始したプロジェクトで、次世代へ継承すべき重要な農法や生物多様性等を有する地域(サイト)を認定する制度であり、各国の多様な農業の存在を積極的に評価し、これを維持、活性化することを目的とした仕組みと

なっています。これまでに、中国の「水田養魚」や、フィリピンの「イフガオの棚田」など、世界で8地域が認定されていました。

今回のGIAHSの認定は、佐渡市がトキの野生復帰を契機に、「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」による生きものを育む農法を農業生産システムに組み込んだ体制を作り、島全体に広げ、消費者との連携を果たし、その連携から生物多様性保全型農業と農業経済が相俟って、持続的な環境と農業の保全体制を作り上げたことが評価されたものです。また金の豊かな歴史が生み出した農業生産活動の活性化は、棚田など里山の自然形成や能・鬼太鼓などの農村文化の発展につながり、佐渡島独特の自然、風景、文化を保全し続けてきたことも大きく評価されました。

これは、佐渡を守り続けてきた島民の長年の活動と、近年の東京農業大学をはじめ、多様な機関と連携を強化していることで、生物多様性の保全のみならず、地域農業の活性化に資する様々な取り組みを具体的に実行してきたことが実を結んだものと確信しています。

しかし、GIAHSの登録はゴールではなく、新たなスタートです。この認定を誇りに思うと

もに、佐渡島民が受け継いできたこの農業の価値を認識し、より一層の持続可能な農業生産活動と里山、自然、文化の保全、そしてトキをシンボルとした生物多様性保全に取り組んで行かなければなりません。市民と産官学の連携を構築し、佐渡島が一体となって、環境再生と経済発展の仕組みが強固となるよう推進し、人と自然が共生する里山の風景、文化、生物多様性保全の新しいモデルとして佐渡の取り組みが確立されるよう努力を続けたいと決意を新たにしているところです。

また、里山イニシアティブ国際パートナーシップなどの参画の検討を進めており、生物多様性保全などの国際貢献も果たしていきたいと考えているところです。

最後になりますが、今年の佐渡展については、佐渡の特産品の販売の実施と合わせて、佐渡のGIAHSの紹介をとおして、美しい里山・棚田のみならず、佐渡の原生林など多様な自然風景の写真展を行います。

ぜひ、今年も「佐渡展」にご来場いただき、佐渡が世界に誇れるGIAHSを知っていただけますよう心よりお待ちしております。



トキが舞う美しい自然風景

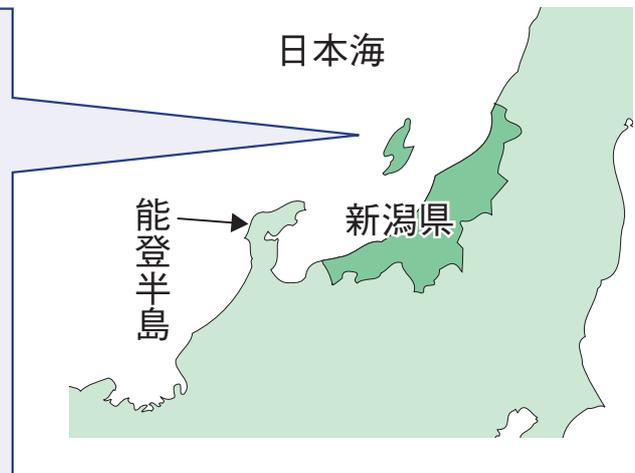


ゴールドラッシュが生み出した棚田風景

## 佐渡島のエリアガイド

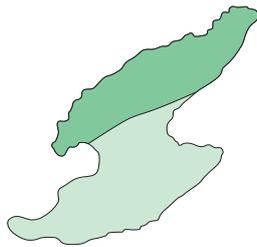
〔佐渡市観光協会ホームページより〕

島といっても佐渡は予想以上に大きな島。初めて訪れる人の多くがその広さに驚きます。また、一つの島の中にさまざまな気候や文化があるのもその広さゆえ。そこで、島を3つの地域に分けて、それぞれの特徴をご紹介します。



### 大佐渡（北部）

1,172メートルの金北山を主峰とする大佐渡山脈を抱き、佐渡島の北部にあたるこの地区は「雄大な自然」



を楽しめる場所。手つかずの自然も多く残されており、登山やトレッキングに訪れる人たちに感動を与えています。またその海岸線では、抜群の透明度を誇る美しい海と、日本海の荒波にもまれ、形づくられた荒々しい男性的な断崖・奇岩が目を見奪います。

人々は昔からこの海と山からの恵みを受けながら生活してきました。そのため海岸線には点在する漁村を見ることができます。また、この地区にはかつて天領であった金山繁栄の頃の面影もあちこちに残され、佐渡の代表的な観光地としても見どころが多いところです。

両津港北部の羽黒神社に伝わる「やぶさめ神事」は鎌倉時代から続いていて、県の無形民俗文化財に指定されています。豊かな漁場を有する内海府の寒ブリは佐渡の冬の味覚の代表として有名です。日本海の荒波に削られた荒々しい岩場や奇岩が多い外海府は、佐渡市の市花に指定されているカンゾウの花の群生地としても知られています。ノルウェイのフィヨルドはあまりにも有名ですが、その中で比較的穏やかな峡谷美で知られるハルダングル・フィヨルドに擬せられ名付けられたのが尖閣湾です。岩肌に咲く岩百合に心が和みます。江戸時代には天領として栄え、佐渡金山採掘の中心地だったのが相川地区(金山地区)です。かつての金採掘跡「道遊の割戸」は、現在、佐渡金山のシンボルとなっています。佐渡随一の夕日鑑賞スポットは七浦地区です。

### 国仲(中央部)

何といても「米どころ佐渡」を支える大穀倉地帯といたら佐渡中央部にあるこの国仲地区。島であること



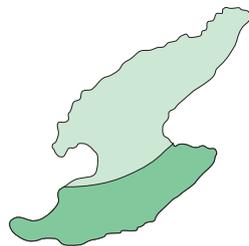
を忘れるほど広大に広がる平野の田園風景は、季節ごとにその表情を変え、見る人をどこか懐かしい気持ちにさせてくれます。また、この地には多くの史跡があり、佐渡に降り立った古人に思いを馳せることができます。

佐渡の表玄関である**両津**の名は、両津欄干橋を挟んで「北の夷」「南の湊」の二つの「津」に由来します。島の経済の中心のこの町が面している加茂湖は、新潟県

内最大の湖です。国際保護鳥トキの生息地で知られている**新穂地区**は、鬼太鼓や人形芝居など伝統芸能の宝庫でもあります。小倉の山肌に張り付いた棚田「千枚田」が美しい**畑野地区**は、日蓮や世阿弥らの足跡が残り、政治犯の流刑地だった佐渡島の歴史を伺い知ることができます。また尾崎紅葉や長塚節ら島に縁の文人の文学碑も多く見られます。佐渡市役所がある**金井地区**は、現在の島の中心です。ここでも世阿弥・日蓮・順徳上皇などの足跡が辿れます。かつて佐渡の国府が置かれていた**真野地区**は、とりわけ史跡の数が多い地域です。真野御陵から妙宣寺を経て、世尊寺、大膳神社に至る道は大和の飛鳥路を思わせます。夏に多くの海水浴客で賑わいを見せるのが**佐和田地区**です。

### 小佐渡(南部)

なだらかな山並みが迎えてくれる佐渡南部のこの地域は佐渡の南国とも言える場所。島の中でも温暖な気候



は、南国特有の植物や果物を育んできました。透通る碧い海と緩やかな海岸線もこの地域の特徴で、リゾート地帯としても知られています。また、佐渡の中でも独特の民俗芸能が多く継承されている所としても有名。木造校舎をそのまま残した民俗博物館や町並み保存地区、たらい舟など、見どころが沢山あります。

水津漁港を中心に穏やかな海岸線が20キロほど続く**東海岸地区**は、佐渡を代表する漁場のひとつです。西三川リンゴや西三川スイカといったブランド・フルーツが人気の**真野・西三川地区(真野地区南**

**部)**は佐渡島の中でも特に気候温暖な地域です。**羽茂地区**は「おけさ柿」と「佐渡みそ」で知られています。また佐渡一の宮の度津神社や羽茂城跡など史跡も多く、「つぶろさし」というユニークな名前の神楽が伝承されています。中世以来の港町**赤泊**は、佐渡の味覚の代表として全国的に知られる紅ズワイガニが有名です。佐渡の南の玄関**小木地区**はかつて金の積出港として、また北前船の寄港地として栄えました。有名な「たらい船」もこの地区に伝わります。名勝・南仙峡、千石船の里・宿根木、佐渡国小木民族博物館など見どころも多く、著名な和太鼓集団「鼓童」もここに拠点を置き、毎年夏には国際芸術祭「アース・セレブレーション」をプロデュースし、国内外の一流アーティストとの共演が世界の注目を集めています。**前浜地区**はかつて、日蓮や世阿弥など多くの流人が最初に島にたどり着いた場所で、多くの史跡が残されています。

## 【佐渡島での実習風景】



### 企画展「佐渡学への誘い～地域連携協定締結から二年を迎えて～」

【主催】 東京農業大学、新潟県佐渡市

【企画・制作・展示】

企画展「佐渡学への誘い」実行メンバー／12名

岡島秀治(農学科教授)、宮林茂幸(森林総合科学科教授)、麻生 恵(造園科学科教授)、上岡美保・田中裕人(食料環境経済学科准教授)、西牧孝行(新潟県佐渡市農林水産課生物多様性推進室主任)、小泉幸道・大林宏也・黒澤弥悦・島野孝一・安田清孝(博物館)、大倉 剛(学生サービスセンター)

【展示案内の執筆】

岡島秀治、宮林茂幸、麻生 恵、上岡美保、田中裕人、西牧孝行

【展示案内の編集と発行】

東京農業大学「食と農」の博物館

# 『佐渡学への誘い』 ～地域連携協定締結から一年を迎えて～

## 関連イベント

### ■ 渡邊忠志 写真展「佐渡の原生林 ー霧が育てた森ー」

【期間】平成23年10月7日(金)～23日(日) 佐渡展「佐渡学への誘い」の全会期中

【渡邊忠志氏のプロフィール紹介に代えて写真集「佐渡の原生林ー霧が育てた森ー」の後記「霧の森に魅せられて」を抜粋・紹介いたします(原文の一部を削除・修正しています)】

この写真集に収められている写真は、大佐渡山脈北側標高800～900mの県有林付近に点在している天然杉、植物など比較的に狭い範囲を収めたものです。

春の山野草の種類の多さ、色の良さ、本州の2,000m級の山でしか見れない野草も佐渡の山では本土より早く咲き、花畑状態で見るができます。

この県有林は標高が高く佐渡の中でも特異な環境のようです。一年の半分は残雪が多く残り人を寄せ付けません。積雪は多い場所で3m～4mにもなり、雪解けは6月になる事もあります。

金北山北側は霧が多く発生しやすく植物や森林にはとても良い環境なのかも知れません。森林の中に一歩足を踏み入ると巨木が点在し、霧がその姿を幻想的に演出して一枚の名画にしてくれます。

原生林には比較的アクセスも良くトレッキング程度の装備でも十分楽しめます。地元のトレッキングクラブの方々のガイドもとても好評のようです。またNPOさど自然保護観察サポート隊も佐渡の自然の保護保全活動の中で、原生林とハイカーのサポートを行っています。

佐渡の厳しい風雪に五百年から一千年を耐え貫いたと推定される天然杉の森を訪ねて是非佐渡を訪れてください。

渡邊



### ■ 関連イベント

「佐渡特選市場」

【期日】平成23年10月8日(土)～10日(月) 10:00～17:00 (最終日は～14:00)

【内容】朱鷺と暮らす郷認証米、佐渡味噌、さどっ子(米粉製品)、果物、乳製品、海産物などの佐渡の物産展を開催「佐渡の民謡大会」と「おけさ教室」

【期日】平成23年10月9日(日)・10日(月) 13:00～14:00

## その他の展示・催事のお知らせ

### ■ 常設展

「稲に聞く」～イネとお米が教えてくれること～	展示中
鶏(ニワトリ)剥製コレクション	展示中
色々な酒器コレクション	展示中
農大卒業生の蔵元紹介(酒瓶のオブジェ)	展示中

### ■ 特別展

「森林(もり)に聞く」展	【期間】平成23年10月28日(金)～平成24年3月25日(日)
	【主催】東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科
「生きものに聞く」展	【期間】平成23年10月28日(金)～平成24年3月25日(日)
	【主催】(財)進化生物学研究所
「近代における造園家の業績とその未来への期待」	【期間】平成23年11月2日(木)～27日(日)
	【主催】東京農業大学地域環境科学部造園科学科
「香りに聞く ～生活を彩る香水の歴史とトレンド～」展	【期間】平成23年12月6日(火)～平成24年3月25日(日)
	【主催】東京農業大学生物産学部食品香料学科